

現代福祉学部

学部基礎情報

<p>【理念・目的】</p> <p>法政大学の基本理念である「開かれた大学、開かれた精神」や「自立型人材の育成」を基盤とした上で、「ウェルビーイング」をキーワードとするミッション・ビジョンを実現する学部として現代福祉学部は2000年に創設された。本学部の教育理念は、福祉を健康で幸福な暮らし（ウェルビーイング）という幅広い概念でとらえ、従来の「社会福祉」系学部での教育内容にとどまらず、ウェルビーイングを実現するに欠かせないコミュニティの再生や創造にかかわる「地域づくり」と、メンタルな健康を支える「臨床心理」を総合的に学ぶことで、幅広い福祉を実現する人材を養成することである。</p> <p>この学部の教育理念をより明確に社会に示すために2010年、福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科に再編した。これは「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の幅広い知識の習得と、＜社会福祉／地域づくり＞、＜臨床心理学＞の専門的・体系的な学習という二つの教育的要請に応えるためであり、これまでの学部の教育理念を変更するものではなく、継承し発展させるためである。</p> <p>またこうした教育理念を実現するためには、「社会福祉」、「地域づくり」、「臨床心理」に関連するフィールドとの連携が欠かせない。キャンパス内での教育にとどまらず、フィールドでの実習教育や調査研究活動を通して、福祉を実現する方法を具体的に学ぶことを教育の基本的な方向性としている。</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)</p> <p>ウェルビーイングの実現という学部の教育理念に基づき、福祉コミュニティ学科、臨床心理学科のいずれにおいても、幅広い福祉の視野をもって社会に貢献できる福祉マインドを身につけた人材養成を行う。その上で、各学科の教育目標は下記のとおりである。</p> <p><福祉コミュニティ学科></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人びとの心の問題も視野に入れた豊かな福祉コミュニティの創造に貢献できる専門的人材を養成する。 2. 地域社会の福祉リーダーとして、地域社会で起きている問題に主体的に取り組む人材を養成する。 <p><臨床心理学科></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の暮らしや制度、人びとの生活や福祉サービスを視野に入れつつ、こころの問題にかかわる専門的人材を養成する。 2. 個人・家族・コミュニティにかかわる心理学を体系的に学んだ人材を養成する。
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p>ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、以下の方針とする。</p> <p><福祉コミュニティ学科></p> <p>所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（社会福祉学）」を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。 2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。 3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、社会福祉・地域づくりの学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。 4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。 5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職や地域住民などと協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。 6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。 <p><臨床心理学科></p> <p>所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（臨床心理学）」を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職と協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

【カリキュラム・ポリシー】

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、下記のような教育課程を編成する。

＜福祉コミュニティ学科＞

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、社会福祉・地域づくりに関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、ソーシャルポリシー分野・コミュニティマネジメント分野・ヒューマンサポート分野の3つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割や地域住民の活動を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

＜臨床心理学科＞

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、臨床心理に関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野、精神保健・福祉分野の4つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

【アドミッション・ポリシー】

＜福祉コミュニティ学科＞

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 少子高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差拡大、心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- 一般選抜（A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試（出願資格型）および大学入学共通テスト利用入試）
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- 学校推薦型選抜
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツ推薦入試）
- 総合型選抜等
まちづくり実践へのモチベーションの高い学生（まちづくりチャレンジ自己推薦入試）
海外高校留学体験に基づく能力、経験および意欲のある学生（グローバル体験公募推薦入試）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試前期日程）

<臨床心理学科>

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 子どもの発達、対人関係や家族関係の問題や心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- 一般選抜（A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試（出願資格型）および大学入学共通テスト利用入試）
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- 学校推薦型選抜
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツ推薦入試）
- 総合型選抜等
海外高校留学体験に基づく能力、経験および意欲のある学生（グローバル体験公募推薦入試）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試前期日程）

【定員管理の状況】

定員充足率(2017～2021年度)(各年度5月1日現在)

年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍学生数	収容定員充足率
2017	231	259	1.12	924	1,067	1.15
2018	231	239	1.03	924	1,080	1.17
2019	231	225	0.97	924	1,070	1.16
2020	231	227	0.98	924	985	1.07
2021	236	246	1.04	929	962	1.04
5年平均			1.03			1.12

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
 ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	改善課題	是正勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	改善課題	是正勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上						

【求める教員像および教員組織の編成方針】(2018年度自己点検・評価報告書より転記しています)

本学部の教員は、大学・学部の教育理念の基本的理解を前提として、(後述する)各学科の教育目標並びに学部・学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを実現できる教員であることを求めている。

具体的には、学部教育への入門期(1年生)における基礎演習は、開講数のほとんどを専任教員が担当することとしている。基礎演習を兼任教員にお願いする際でも、本学部教育にかかわりのある教員にお願いすることを基本としている。また専門基礎科目についても、その科目の大半を専任教員が担当することとしている。専門教育が本格化する2・3年生では、専門基幹科目について、その科目の大半を専任教員が担当することとし、専門演習Ⅰ・Ⅱ、実習や実習指導科目は、原則として専任教員が担当することとしている。最後に学部・学科教育のまとめをする4年生では、専門演習Ⅲおよび卒業論文の指導は専任教員が担当することとしている。このように、学部専門教育の基礎や基幹となる科目、学部教育の特徴である実習科目、そして最も学生と身近な存在である基礎演習と専門演習については、そのほとんどを専任教員が担当することを、教員組織の編成方針としている。また実習教育をサポートする教員として実習指導講師(任期付助教)を採用し、よりきめ細かな実習教育を実現することとしている。

【専任教員数および年齢構成一覧】

2021年度専任教員数一覧(2021年5月1日現在)

教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任 教員数	うち教授数
24	3	0	5	32	24	12

専任教員1人あたりの学生数(2021年5月1日現在):30.1人

年齢構成一覧(2021年5月1日現在)

年度\年齢	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下
2021	8	12	9	3	0
	25.0%	37.5%	28.1%	9.4%	0.0%

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部においては、Covid-19への対応という通常と異なる緊急対応が求められた2020年度において、6月という早い段階で学生へのオンライン授業に関する満足度調査を行い、その結果をウェルビーイング研究会において専任教員と兼任教員で共有したこと、実習・インターンシップについても派遣先と連絡を密にしながらすべてのプログラムを実施

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

したことなど、状況の変化に臨機応変に対応したことは高く評価できる。

また、実習報告書の作成や報告会の開催、懸賞論文の積極的な投稿と受賞、学内外のコンペ等への参加など、学習成果を学内外に積極的に公表する取り組みが成果をあげてきており、より積極的な広報活動に生かせるという好循環を生み出すことが期待できる。

現代福祉学部においては新カリキュラムが2021年度入学生から適用となることから、このカリキュラムの円滑な実施と定着、検証に向けた取り組みを期待したい。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学部専任教員と兼任教員がCovid-19に対する緊急対応策を共有して教育活動を行ったことが評価され、2021年度においても、緊急対応が必要とされた際、これまでに蓄積した経験を生かして教育活動を推進した。また、学習結果を学内外に公表した取り組みが評価され、2021年度も前年度同様に広報活動を継続した。

新カリキュラムの導入に伴い、2021年度の授業期間前に履修ガイダンスと履修相談会を開催し、新カリキュラムについて学生へ説明した。

教育理念の実現を目指し、国内外を問わず、福祉、地域、臨床心理の領域における現代社会の課題に的確に対応できる人材を養成するために、今後も努力を重ねていきたい。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部は、2021年度に新カリキュラムを導入した。その効果的かつ円滑な導入と実施を図るため、カリキュラム・マップ及びツリーを確認した。これに加えて学生のモニタリング調査も実施し、そこから明らかになった課題が教授会に報告された。この間の初期対応の迅速さと計画性は高く評価できる。抽出された課題の対応策に関する協議は2022年度の達成目標として設定されており、対応策の早期実施を期待したい。

少人数教育については基礎演習担当者懇談会を実施し、毎回の授業内容を全担当教員でメール共有するなどして各クラスの進度や内容のばらつきを最小限に抑える努力がなされている。アクティブラーニングについては基礎ゼミコンペが実施され成果をあげていると思料される。コロナ感染拡大によりフィールドワークなどの実施に困難が生じたことは想像に難くないが、教員間で内容の共有を積極的に行い、学部全体としての課題対処と教育レベル向上に向けた努力が継続的に行われていることは高く評価できる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

理念・目的の内容についての適切性および表現について、教務委員会にて毎年検証を行い、修正内容を教授会に提出して承認を得ている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
基礎演習Ⅰ（1年次）と専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2年次から4年次）を原則として専任教員が担当し、専任教員が担当できない場合は本学部の教育と関わりのある兼任教員が担当し、受講生数を基礎演習Ⅰでは20名程度、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは上限を12名程度としているので、学生の学習状況が丁寧に把握されている。

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【理念・目的の評価】

現代福祉学部は、本学の基本理念に基づき、ウェルビーイングの実現を教育理念とし、その具体的内容については教務委員会で毎年度、適切性が検証され、教授会の承認を得ている。これが現代福祉学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに明記され、教員だけでなく学生に周知され、社会に向けても公表されている。
1年次では受講生20名程度の基礎演習Ⅰにおいて、2年次から4年次では受講生上限12名の専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという少人数クラスにおいて、同学部の教育理念の徹底が図られている。担当教員は専任教員を原則としながら兼任教員が担当する場合もあるが、十分な教育理念の共有、教員相互のコミュニケーションがはかられており、適切に運営されているものと評価できる。

2 内部質保証

（1）点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい
<p>【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部に FD 検討委員会ならびに質保証委員会を設置し、定期的な検討を行う。 ・FD 検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとに FD を検討するとともに、全学的な自己点検・評価活動については質保証委員会で検証を行う。 ・質保証委員会の構成は、学部執行部以外の教員から選出し、第三者的立場から客観的に自己点検・評価シートの内部監査を行う。 ・2021年度は年度当初と年度末に質保証委員会を開催し、年度目標とその達成状況を確認し、委員会から意見を求めた。 ・ウェルビーイング研究会を3回（6月、11月、3月）開催し、授業形態ごとにオンライン授業の工夫と成果を報告し、意見交換を行った。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考え

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

られる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
2021年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応は執行部および教務委員会が担当したため、質保証委員会は特別の役割を果たすことはなかった。今後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関するような緊急対応が要請された際の質保証委員会の役割について検討することが課題である。

【内部質保証の評価】

現代福祉学部では、質保証委員会が年度当初と年度末に定期的に開催され、年度目標の設定と達成状況の確認が行われている。これとは別にFD検討委員会が設けられ、授業アンケート等をベースにFDの検討も行われている。これらの継続的活動は評価できる。

毎年度大学院教授会と合同で開催される3回開催されるウェルビーイング研究会は教員の研究交流の場であると同時に、FD活動の場でもあり、現代福祉学部のユニークな取り組みである。2021年度は同研究会において、オンライン授業の工夫と成果の共有が図られていて、これがCOVID-19への対応措置として機能している。同学部では質保証委員会の役割としてCOVID-19対応が明示されていないことが今後の課題としてあげられているが、質保証委員会とウェルビーイング研究会の役割分担と連携強化はその解決策となりうる。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・ <http://www.hosei.ac.jp/gendai/fukushi/shokai/policy.html>
- ・ 履修の手引き（入学年度別に作成されている）

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度3.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

教務委員会が教育目標、学位授与方針、教育課程の編成と実施方針の適切性および表現等について、さらにその課題について検討し、ウェルビーイング研究会での意見交換を経て、教授会で修正案の承認を得ている。教務委員会が学生

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

を対象としてモニタリング調査を行い、学生からの意見・要望等を教務委員会および教授会での検討材料として活用している。

2021年度に行った具体的な検証プロセスは以下の通りであった。

- ・教務委員会でカリキュラム・マップやツリーの適切性を確認した。
- ・学生へのモニタリング調査を11月に実施し、同調査により明らかになった課題について、教務委員会において改善策を協議し、教授会へ報告した。
- ・ウェルビーイング研究会において、授業形態ごとにオンライン授業の工夫と成果を報告し、意見交換を行った。
- ・実習、インターンシップに関して、年度当初に教務委員会ならびに実習調整委員会が方針を検討し、年度中には実施状況を確認し、その結果を各分野（福祉、地域、臨床心理）において共有した。
- ・各実習の報告書を年度末に作成し、報告会開催状況について教務委員会で確認した。
- ・ゼミ担当教員を対象として、新型コロナウイルス感染症の拡大状況下における各ゼミの対応状況を調査し、教務委員会において今後の教育方法について検討を行い、教授会へ報告した。
- ・各ゼミの卒業論文報告会、学内外のコンペ等への参加状況、学習・活動報告会の開催実態を調査把握し、教授会へ報告した。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ソーシャルワーク実習報告書
- ・精神保健ソーシャルワーク実習報告書
- ・スクールソーシャルワーク実習報告書
- ・コミュニティマネジメント・インターンシップ/リサーチ報告書
- ・心理実習報告書

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021

年度 1.1①に対応

S： さらに改善することができた

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。コミュニティをベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。これらの知識・技能を基盤として実習やインターンシップによる現場教育を充実させ、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。

実習・インターンシップ科目としては、福祉コミュニティ学科のコミュニティ系実習科目として「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」を2年次から選択できるように配置し、3年次と4年次においては社会福祉系実習科目である「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」と臨床心理系実習である「臨床心理実習」を配置し、学生の学びの多様性の保障に努めている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

福祉コミュニティ学科のカリキュラムを改定した。

2019年度に行われた社会福祉士養成課程における教育内容等の見直し（2021年度から適用）に伴い、本学部の社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムを改定した。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.各学年での履修）
- ・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー
- ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習 実習の手引き
- ・心理実習の手引き
- ・<https://www.hosei.ac.jp/application/files/7916/4861/8597/fukukomikari.pdf>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/9816/4861/8595/fukukomikamokugun.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/5216/1735/6913/e0bf03d8af387bb1c6aee40b45d85bc9.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/7716/1735/6913/0d9006cfc68279166aab0b9551cc114a.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/5016/4861/8598/rinshinkari.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/6516/4861/8600/rinshinkamokugun.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/4916/1735/6916/6c1a0e88240b1975cc8386ac0be3fe3b.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/7716/1735/6915/957f245a22f5f7c21f8a5ea2377be3cf.pdf>

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度1.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、次の教育課程を編成している。1年次の履修科目にはウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために総合教育科目として学部共通科目、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を配置している。2年次以降では、ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、社会福祉・地域づくり（福祉コミュニティ学科）、臨床心理（臨床心理学科）に関する専門科目を置き、3年次と4年次には課題発見力と解決力、さらに表現力を涵養するために高度な演習と実習を行う演習・実習科目を配置している。

『履修の手引き』と学部ホームページにおいて各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、年度初めには在学生によるラーニングサポーターと教務委員による履修相談会を実施することで、学生の志向性に合わせたカリキュラム体系を説明する機会を設けている。

カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいては、ディプロマ・ポリシーごとの科目を各学年に列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・ 特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、II.各学年での履修）
- ・ カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/7916/4861/8597/fukukomikari.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/9816/4861/8595/fukukomikamokugun.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/5216/1735/6913/e0bf03d8af387bb1c6aee40b45d85bc9.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/7716/1735/6913/0d9006cfc68279166aab0b9551cc114a.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/5016/4861/8598/rinshinkari.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/6516/4861/8600/rinshinkamokugun.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/4916/1735/6916/6c1a0e88240b1975cc8386ac0be3fe3b.pdf>
- ・ <https://www.hosei.ac.jp/application/files/7716/1735/6915/957f245a22f5f7c21f8a5ea2377be3cf.pdf>

3.3③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。2021年度1.1③に対応

S： さらに改善することができた

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

専門領域を越えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化されている。

1年次からの専門教育偏重を避けるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は、2年次からの配置としている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

福祉コミュニティ学科では、カリキュラムの改編に併せて、専門基礎科目と専門基幹科目の構成を見直し、2021年度入学生から新カリキュラムを運用した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ．カリキュラム） ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習 実習の手引き ・心理実習の手引き

3.3④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021年度1.1④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。
<p>1年生を対象として少人数の演習形式で行う「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を開設し、大学における学習の視座、方法や技術に関する初年次教育を実施している。</p> <p>「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会を実施したほか、毎回の授業内容を全担当教員でメール共有することで、クラスにより授業の進め方に大きな差が生じないように配慮している。</p> <p>また、「基礎演習Ⅱ」（秋学期）において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目的としてグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を行っている。2018年度からは全クラスが参加する仕組みを整え、2021年度も1年生全員参加のもと、特徴ある調査結果と改善政策提言の報告およびレベルの高いプレゼンテーションが行われた。</p> <p>さらに担当教員に教育開発支援機構教育開発・学習支援センターが作成した「学習支援ハンドブック」を配付し、基礎演習での指導に活用した。</p> <p>付属高校生に向けては、本学の教育理念や内容を伝える方法を改善し、それに共感する高校生が入学できる入試制度を整えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大が継続した2年間は、一般高校からの模擬講義等の要請はなかったが、今後、要請があれば講師を派遣する予定である。</p>
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
<p>感染症蔓延によりオンライン授業に転換した期間については、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」のプログラムの一部を見直した上で、クラスによる差異が生じないように、授業実施内容と学生の様子を全担当教員が毎回、授業終了後にメールで情報共有した。</p>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」における春学期（前期）共通プログラムメモ ・教育開発支援機構教育開発・学習支援センターが作成した「学習支援ハンドブック」

3.3⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑤に対応

S： さらに改善することができた
※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
<p>本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「Intensive English」を開講している。</p> <p>また、2つの学科にまたがって、英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講し多くの学生が受講している。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な社会福祉・コミュニティマネジメント・臨床心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）を設けているが、世界的に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、2021年度は渡航ができなかった。</p>
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

本学部のゼミ（福祉コミュニティ学科）を中心とする学生6人が、世界各地で懸念される食糧危機を念頭に、地域の民間企業や社会福祉法人と連携しながら昆虫食に関する企画を実践した。その結果、「KANDAI×HOSEI SDGs WEEKs2021」の一環として行われたSDGsアクションプランコンテストで優秀賞を受賞した。

また、本学部のゼミ（福祉コミュニティ学科）で学ぶ学生が、国際的に注目されている循環型経済の事例から学びつつ、「人馬のウェルビーイング～馬糞堆肥の活用を通じた農福連携と循環型経済～」というプロジェクトを行った。体育会馬術部と連携したこの活動により、公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩の主催による第7回「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2021」の奨励賞を得ることができた。コロナ禍にありながら、このような国際的な視点に立った学生主体の実践を本学部としても推奨してきた結果であると考えられる。

国際文化交流を目的としたゼミ（福祉コミュニティ学科）の活動として日本に在住するナイジェリア人と連携し「グローバル・エクステンジ・プロジェクト」を立ち上げ、オンラインを通じてナイジェリアに住む日本に関心のある人々と日本人学生との語学・文化交流セミナーを年2回行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・KANDAI×HOSEI SDGs アクションプランコンテスト2021を開催
<https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article-20211214125024/>
- ・第7回「多摩の学生 まちづくり・ものづくりコンペティション2021」の受賞団体 — 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 (nw-tama.jp)
<https://nw-tama.jp/competition/2021-sinsakekka/>

3.3⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021年度

1.1⑥に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。

さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の関連性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。1年生向けの「基礎演習Ⅰ」においてもキャリアセンターから講師を招き、また、大学院生の協力を得て、担当教員とともに将来の職業に向けての学びについての講義を提供することで、学生が自ら考えるきっかけづくりを行なっている。そして、3年生を対象とした「専門演習Ⅱ」等においても、キャリアセンターと連携しながらキャリアセミナーを開催するなど、キャリア教育を継続している。

現代福祉学部卒業生の同窓会と連携してキャリア教育を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

同窓会と連携した新たなキャリア教育として、2021年度は学生に現代福祉学部同窓会主催による記念シンポジウム（2022年2月27日開催 テーマ：いま打ち込んでいる仕事とコロナ禍を経て変わったこと）への参加を促し、進路意識の形成を図った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「フィールドスタディ入門」開講スケジュール
- ・「キャリアデザイン論」開講スケジュール
- ・2021年度 法政大学現代福祉学部同窓会主催記念シンポジウムの案内

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

S： さらに改善することができた

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・年度当初に学年ごとの履修ガイダンス（対面、資料配信）、ラーニングサポーターと教務委員による履修相談会を実施している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
2021年度は学年ごとの履修ガイダンス（福祉コミュニティ学科は全学年で対面、臨床心理学科は1年生と2年生では対面、3年生と4年生では資料配信）、ラーニングサポーターと教務委員による履修相談会（2日間）を実施した。対面による履修ガイダンスと履修相談会を開催できたことにより、昨年以上に丁寧な対応がなされた。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料） ラーニングサポーターに関する案内メール配信

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

S：さらに改善することができた
※取り組み概要を記入。
学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として専任教員が担当し、演習科目ではおおよそ20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。個々の教員はオフィスアワーを設定し、個別指導を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
成績不振の基準値を見直し、0.5から0.8へ変更した。 従来は成績不振学生の個別指導を秋学期に実施していたが、2021年度は春学期と秋学期に実施することで、より丁寧な指導を行うことができた。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> 現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） 現代福祉学部履修の手引き（各学科Ⅱカリキュラム2.演習・実習科目） 現代福祉学部履修の手引き（専任教員紹介におけるオフィスアワー） 現代福祉学部成績不振学生等への対応基準（2021年4月21日教授会修正）

3.4③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021年度1.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
シラバスにおいて各回の授業内容を明示するとともに、【授業時間外の学習】の項目において、学生が行うべき学習内容を示し（内容が示され）、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・シラバス

3.4④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4④に対応

はい
【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。
・1年次～4年次：1年間に48単位
【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。
上記の上限単位+再・未履修科目を履修する場合、2年次以上は49単位を上限として履修が可能である。 1年次と2年次では、言語コミュニケーション科目の「Intensive English」（4単位まで）を履修登録単位数に追加して履修可能である。 教職科目・資格課程科目は履修登録単位数とは別に履修可能である（1年次は10単位まで、2年次と3年次は24単位まで、4年次は制限なし）。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き ・シラバス
--

3.4⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021年度1.2④に対応

S： さらに改善することができた
<p>【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために、全学的な基本方針に従い授業形態を変更し、授業の特性に応じてリアルタイムオンライン授業（Zoomを使用）、ハイフレックス授業、教材配信型のオンデマンド授業を行っている。 ・2学科3領域（福祉、地域、臨床心理）における実習・インターンシップ科目は、座学で得た知識・技術・価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。 ・福祉コミュニティ学科では「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」において、学生による実習報告会を開催している。また、実習施設の実習指導者を招いて実習実施体制等の振り返りを行うとともに、新カリキュラムにおける社会福祉士養成教育の在り方についてオンラインにて懇談会を実施している。 ・より良い授業を目指して、授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）を実施し、教授会においてその内容を確認している。 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本学の「課題解決型フィールドワーク for SDGs」に本学部教員のプログラム「大規模自然災害発生時の大学キャンパスでの避難生活のデザインワークⅢ～豊かさと包摂性を追求した避難生活～」が今年度3度目の採択を受け、大学キャンパスでの避難生活のデザインを目的に、7学部8名の学生が参加した。教室での座学のみならず、学外での体験プログラムを取り入れ、授業の新しい形を試行することができた。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各領域実習報告書 ・実習報告会資料 ・授業相互参観報告書 <p>以下、課題解決型フィールドワーク for SDGs</p> <ul style="list-style-type: none"> ・https://hosei-keiji.jp/ilac/fieldwork_for_sdgs_2021/ ・https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/530218621f578f6424b47f9849b17ef2.pdf ・https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2200481&nendo=2021&gakubu_id=%E3%83%AA%E3%83%99%E3%83%A9%E3%83%AB%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%84&gakubueng=AX&t_mode=pc

3.4⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021年度

1.2⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>「基礎演習」「専門演習」「実験科目」「情報・調査系科目（一部を除く）」「言語コミュニケーション科目」については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限し、クラス編成を行っている。</p> <p>同様に、実習教育においても、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き ・専門演習 IA・IB 選考会案内および担当教員への案内

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.4⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑦に対応

はい
<p>【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会においてシラバスの充実を確認するとともに、兼任・兼担教員を含めすべての教員に講義概要の執筆依頼を配布し、詳細かつ適切な内容記述に関する注意喚起を行っている。 ・2014年度から、教務委員会がシラバス第三者評価委員として、すべての講義のシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入して、適正化に努めている。 ・シラバスの検証を行う中で見つかった問題・疑問点については、評価委員間で共有し、検証作業へ反映させている。さらに、検証作業終了後には次年度のシラバス作成に向け、教務委員会が問題点を教授会へ報告している。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス第三者確認用資料一式

3.4⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑧に対応

はい
<p>【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの運用の適切性については、授業改善アンケート等の結果を参考として検証している。 ・基礎演習に関しては、春学期は共通のシラバスとなっているため、代表教員を置いた上で、授業開始前から授業期間全体を通し、担当教員間で授業内容や方法などについて確認を行っている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業改善アンケート結果 ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて

3.4⑨通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度1.2⑥に対応

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>2021年度授業実施については、行動方針レベル1を想定して対面授業を基本に展開していく方針であったが、行動方針レベル2になった場合の授業形態について授業開始前にすべての授業について検討した。その結果、行動方針レベルが変更になった際の授業形態（演習・実習・実験科目は対面授業、他の主な講義科目はハイブリッド型）を授業開始前に学生へ伝えることができ、行動方針レベルの変更に合わせて授業形態をスムーズに移行できた。なお、特別配慮が必要な学生が受講している授業ではハイフレックス授業、Zoomミーティングによるオンライン授業を展開し、対応した。</p> <p>各ゼミの新型コロナウイルス感染症拡大に対する対応について、担当教員にアンケート調査を実施し、教務委員会において教育方法について検討し、教授会に報告した。</p> <p>ウェルビーイング研究会において、授業形態ごとにオンライン授業の工夫と成果を報告し、意見交換を行った。</p> <p>実習とインターンシップに関して、教務委員会ならびに実習調整委員会において情報を共有した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業形態の確認に関する依頼メール ・2021現代福祉学部授業形態一覧（レベル1・2） ・ウェルビーイング研究会開催案内メール

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準（Sの割合）の統一を図っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・各教員が他の授業の成績分布を参考にしている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて

3.5②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。2021年度1.3②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
成績評価については、特に複数クラスを設定している基礎演習において、クラスごとの偏りがないように、春学期と秋学期に基礎演習担当教員懇談会において打ち合わせを実施し、申し合わせ事項を作成している。
また、心理実習とソーシャルワーク実習においては、実習担当教員と実習委員会において打ち合わせを行った上で成績評価を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて
・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」出欠と成績評価に関する申し合わせ事項

3.5③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。
・専門演習担当教員を通して就職・進学等の進路実態を把握し、教授会において情報共有がなされている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度卒業生の就職・進学状況一覧

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。
成績分布、進級状況などについては、事務課によって作成されたデータに基づいて適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。
GPAが0.8以下(2020年度までは0.5以下)の学生については、執行部・教務委員・演習担当教員による個別面談等により原因の把握、改善策の検討、履修計画の指導を行っている。
優秀な成績を修めた学生、法政大学懸賞論文入賞学生、学内外で秀逸な企画を提案した学生などを把握している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・現代福祉学部 進級・卒業審査資料
・現代福祉学部成績不振学生等への対応基準(2021年4月21日教授会修正)

3.6②学修成果の把握に関する方針(アセスメント・ポリシー)に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

福祉コミュニティ学科は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験対策講座を実施している。また、両国家資格合格者人数の把握によって学習成果を測定している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・試験対策講座の資料 ・社会福祉士・精神保健福祉士合格者データ

3.6③学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
英語に関して、入学時と1年終了時にTOEICテストを実施することにより、個々人の能力の同定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営に活かし、また1年次および次年度の習熟度別科目のクラス編成にも役立っている。2018年度入学生からの「インテンシヴ・イングリッシュ」については、履修生の授業内の取り組みについて、専任教員、授業担当教員、事務課職員による報告会を春と秋の学期毎に設け、その学習効果を科目担当者と語学教育運営委員会とで検証し、より適切な授業運用や指導を行うよう努めている。
「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」においては、学生の実習報告会、各学生に関する実習指導者による実習評価票、学生の実習報告書、また、「心理実習」においては学生の実習報告書から学習成果を把握し、評価している。
「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は、年度末に調査・実習報告書を取りまとめ、その指導を通じて習熟度を把握している。
「心理実習」には先行履修要件（ボランティア活動と先行履修科目）を設け、所定の基準を満たした学生が履修できるようにしている。さらに、「心理実習」と「心理演習Ⅰ・Ⅱ」を並行履修することで学習効果を高めるようにしている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・春（4月）および年度末（1月）のTOEICテスト結果 ・ https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20220126084606/ ・「インテンシヴ・イングリッシュ」履修生の取り組み報告会開催通知メールおよび報告会資料 ・2021年度各領域実習報告書 ・ソーシャルワーク・精神保健ソーシャルワーク・スクールソーシャルワーク実習記録 ・実習記録内の実習評価票

3.6④学習成果を可視化していますか。2021年度1.4④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等
4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

「授業改善アンケート」の結果を踏まえ、問題点が指摘された場合は事務課の協力を得た上で学部執行部が改善策を検討している。

学生への「モニタリング調査」を実施（今年度は対面で実施）し、教育成果を教務委員会と教授会において検証している。また、明らかになった課題については教務委員会で改善策を協議し、教授会へ報告している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2021年度学生へのモニタリング調査結果

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

S： さらに改善することができた

【利用方法】※箇条書きで記入。

・教授会において「授業改善アンケート」結果の情報について共有化を図っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

これまでのアンケート結果や学生へのモニタリング結果を受けて、2018年度入学生から、より実践的な英語の能力を測定するためTOEICテストを導入している。また、学生への意向調査結果を反映して、2021年度から諸語（フランス語、ドイツ語）を追加し、過年度入学生を含めて履修できるようにした。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2021年度授業改善アンケート学部基本集計・全学集計結果報告書

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

学部の規模が大きくないので、少人数教育やアクティブラーニングが多いこと、学部の専門性の観点から各実習を中心にフィールドワーク科目も充実していること、さらには海外への協力支援などにも取り組んでいること、同窓会との連携でキャリア教育も進展しつつあることなどが現代福祉学部の教育の特色として挙げられる。

基礎演習（1年次）と専門演習（2年次から4年次）を原則として専任教員が担当しているので、個々の学生の修学状況を把握しやすく、丁寧な指導が可能となる点も特色である。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

各教員の持ち味を活かした多様なゼミ活動が行われているが、相互にゼミの特色を確認する機会が持たれてこなかった。学生の学習成果を発表することは、教員のFDを推進する上でも重要であり、今後の重点課題と位置づけ、継続して検討する。

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること(3.1~3.2)>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

現代福祉学部のディプロマ・ポリシーは、両学科とも6項目が設定されている。両学科ともに6項目のうち3項目は現代福祉学部の教育理念であるウェルビーイングの理解と実現を掲げており、学部の独自性が明確に示されていることが評価できる。カリキュラムはディプロマ・ポリシーの達成に向けて、総合教育科目、専門教育科目、基礎演習、専門演習、実習関連教育などの多角的な教育から構成されている。特に後二者では学生が自らフィールドに立ち、現場知と実践力を身につける構成となっていることは実践力養成の観点から高く評価できる。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

現代福祉学部は、社会福祉や臨床心理など、高い専門性を有する高度職業人の養成を大きな目標としている。この目標を達成するために関連学問分野を基礎から応用へ着実にステップアップするためのカリキュラム編成がなされている。2年次からはインターンシップ科目が選択可能であり、3年次と4年次では実習科目が配置されている。これにより、低年次で学習した知見を、高年次では現場で応用することができ、総合的判断力を備えた豊かな人間性が涵養される。現代福祉学部では、カリキュラム体系を定期的に見直し、継続的な改善を進めていて、2021年度から新カリキュラムが適用されている。

初年次教育としては基礎演習Ⅰ・Ⅱがあり、クラスによって進度や内容にばらつきが生じないように担当教員で授業内容を共有する努力がなされている。

学生の国際性を高める教育としては英語を教授言語とする専門科目を2科目開講している。海外研修制度も設けているが、2021年度はCOVID-19感染拡大のため実施できなかった。

キャリア教育としては、現場で勤務する職業者による講義を実施するほか、基礎演習Ⅰや専門演習Ⅱではキャリアセンターと連携した講義を行っており、学生のキャリア意識向上に貢献している。

<③教育方法に関すること (3.4) >

現代福祉学部では、2021年度は1年生と2年生に対して対面による履修ガイダンスと履修相談会を行い、丁寧な指導が行われた。さらに、個別指導の対象となる成績不振者の基準を2021年度に0.5から0.8に引上げることで、より多くの学生に指導を行った。指導回数も従来は年度で1回であったものを2回に増やし、よりきめ細かい指導が行えるようになった。

シラバスについては、全講義を対象としたシラバスチェックが教務委員会により行われている。シラバスの【授業時間外の学習】では学生が行うべき学習内容が示され、学生の学習時間を確保する具体的指針が示されている。さらに、より良い授業を行うため教員の授業相互参観が行われ、その内容が教授会で共有されている。

2021年度には現代福祉学部教員のイニシアチブにより、大学キャンパスでの避難生活デザインを目的とするプログラムが実施され体験プログラムが実施された。

特定の科目については1授業あたりの受講者数の上限を設け、クラス編成を行うことで高い教育効果を確保する努力が行われている。

COVID-19感染が拡大し、行動方針レベル2を想定して、それぞれの授業形態に応じて対面授業とハイフレックス授業の使い分けが検討・実施された。その結果はウェルビーイング研究会において教員間で共有され、これに基づいて教育方法改善について教務委員会で検討がなされた。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >

現代福祉学部は、専任教員が担当する少人数教育やアクティブラーニングを積極的に取り入れている。これに加えて、高度職業人養成の観点から同窓会と連携したキャリア教育を推進し、学習意欲を向上させる特色ある教育が実施されていて、高く評価できる。

成績評価はシラバスに記載された基準に基づいて行われるが、基礎演習ではクラス毎の偏りがないように担当教員間で申し合わせ事項が作成されている。さらに実習科目においては担当教員と実習委員会の合意に基づいて成績評価が実施されている。これにより、適切かつ厳正な評価が行われていると判断できる。

学習成果の把握については、国家試験合格者数の把握、教職員による英語教育成果の検証と共有、実習科目における報告会の実施等が積極的に進められている。授業改善アンケートから見出された課題については執行部が事務課と共同で対策案を検討している。

2021年度は学生との対面によるモニタリング調査が行われ、抽出された課題が教授会に報告された。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度 4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。新規

※取り組み概要を記入。

現代福祉学部のアドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、学校推薦型選抜として指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツ推薦入試、総合型選抜としてまちづくりチャレンジ自己推薦入試（福祉コミュニティ学科のみ）、グローバル体験公募推薦入試、外国人留学生入試前期日程を実施している。

担当教員として学部長と主任に指定されているスポーツ推薦入試を除き、現代福祉学部が書類選考と面接を実施する選抜においては、教務委員に加え、各選抜に適する教員を配置している。それと同時に、教員の専門分野のバランスが取れるように面接委員を配置し、公正な実施を心掛けている。

査定の際には、担当教員が各自の査定結果を報告し、担当教員間で意見交換を行い、公平性を保てるよう努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度 各選抜の入学試験要項
- ・法政大学ホームページ
<https://nyushi.hosei.ac.jp/>

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度 4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学センターの助言を受けた上で、入学定員に基づく適切な入学者数となるように努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各選抜における入学者数の一覧表

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度 4.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

前年度の学生募集および入学者選抜結果について、教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次、執行部・教務委員会・教授会において検討を行なっている。

指定校推薦について、過去3年間の志願状況、指定校推薦入学者と全経路の入学者の学内成績（GPA）との比較などから、毎年、執行部、教務委員会、教授会で指定校の見直しを行っている。

まちづくりチャレンジ自己推薦入試について、まちづくりチャレンジ入試運営委員会において、入学者の成績ならびに所属ゼミを確認している。さらに、同入試での入学者に協力を得て、オンライン相談会を開催して志願者の確保に努めている。

付属校推薦入試について、同入試での入学者から協力を得え、付属校で教員と共にガイダンスを行い、現代福祉学部の教育理念とカリキュラム等を説明している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

・指定校推薦において、過去3年間の志願状況、指定校推薦入学者の学内成績（GPA）などに基づき、指定校の見直しを行った
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・指定校一覧表
・全入学者および指定校推薦者の成績表（平均 GPA）および過去3年間の出願状況

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
ここ数年間、指定校推薦入試において比較的安定した数の出願者を得ているが、上位校入学者の中には突出して学内成績（GPA）の低い学生がいる。今後、各種の指標を参考にして、学内で良い成績を修める入学者を確保できるよう指定校を見直すことが課題である。

【学生の受け入れの評価】

現代福祉学部における指定校推薦は入学者の学内成績などを比較し、執行部、教務委員会、教授会で見直しを毎年行っている。その結果、上位校入学者の中に成績不振者がいることが課題として認識されている。学生受け入れ公平性の観点から、慎重な指定校見直し作業を進めることが期待される。

福祉コミュニティ学科が行うまちづくりチャレンジ自己推薦入試は、同制度による入学者の協力も得てオンライン相談会を実施するなどしてユニークな学生を確保する可能性を秘めている。その効果については同入試運営委員会が入学者の成績や所属ゼミをモニターして、分析を続けていることから今後の成果に期待したい。

5 教員・教員組織

（1）点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。2018年度5.1①に対応

はい
【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則 ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則 ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格 ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規 ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

5.1②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1②に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
・教授会執行部 4 名（学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会主任・実習委員長 1 名、教授会副主任 1 名）

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・教授会（原則として月に2回） ・執行部会議 ・教務委員会 ・学部FD検討委員会 ・質保証委員会 ・カリキュラム検討委員会
【明示方法】※箇条書きで記入。
・学部内委員会委員一覧表
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・学部内委員会委員一覧表

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい
※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。
2010年度の学科改組にもとづき、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・現代福祉学部履修の手引き

5.2②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。2018年度5.2②に対応

はい
※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。
大学院を担当する教員についても、学部同様の規程整備を行い、大学院教育への順次的連続性と専門性の確保に努めている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

5.2③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。2018年度5.2③に対応

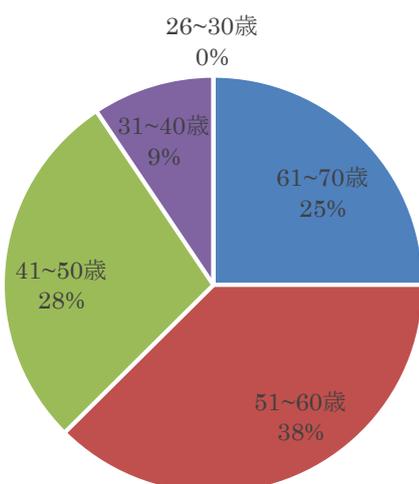
はい					
【特記事項】※ない場合は「特になし」と記入。					
教員の年齢構成については採用時の配慮事項としており、40歳代の層の充実により、年齢層の偏りが改善されてきている。					
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。					
・特になし					
年齢構成一覧	(2021年5月1日現在)				
年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2021	0人	3人	9人	12人	8人
	0.0%	9.4%	28.1%	37.5%	25%

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

年齢構成比
(2021年度現代福祉学部)



5.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

5.3①各種規程は整備されていますか。2018年度5.3①に対応

はい

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
- ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
- ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
- ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
- ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

5.3②規程の運用は適切に行われていますか。2018年度5.3②に対応

はい

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することも可。

- ・上記根拠資料の通り

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.4①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のウェルビーイング研究会を毎年3回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。

【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

ウェルビーイング研究会

■第1回

日時 2021年6月26日（土）15:00～17:00

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 S306 教室+オンライン

テーマ 新任教員の研究報告とオンライン授業に関する意見交換

講師 岡田栄作准教授「アフターコロナを見据えた高齢者の交流と介護予防に関する研究」

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

小田友理恵助教「自然科学的人間観に着目したクリニカルサイコロジストの実践生と科学性の関連」
 間嶋健助教「エビデンスを活用するソーシャルワークに向けた実践『現場』研究の方法～介護老人保健施設の退所支援におけるソーシャルワークの研究より～

参加人数 36名

■第2回

日時 2021年11月24日(水) 15:30～17:00

場所 法政大学多摩キャンパス 現代福祉学部第1・2会議室+オンライン

テーマ 今年度のオンライン授業のふり返りと次年度の授業方針の意見交換

参加人数 21名

■第3回

日時 2022年3月2日(水) 14:00～15:30

会場 法政大学多摩キャンパス 現代福祉学部心理学実験室

テーマ 2020年度国内研究員(丹羽郁夫先生) サバティカル明けの研究報告

長山先生・中村先生最終講義

講師 丹羽郁夫教授「日本の遊戯療法における「セラピストが子どもと一緒に遊ぶ」かたちへのV.Mアクスライ
 ンの影響を探る」

中村律子教授「研究と実践のあいだ・・・高齢者福祉の現場から」

長山恵一教授「研究者・臨床家としての45年間を振り返って」

参加人数 50名

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2021年度ウェルビーイング研究会開催の案内

・教授会議事録

5.4②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

- ・ウェルビーイング研究会において、学部内の教員の研究成果や社会活動について発表し、資質向上を図っている。
- ・年に一度、本学部で発行している『現代福祉研究』において、教員業績の発表を義務付けることにより、研究業績の向上を教員間で共有している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『現代福祉研究』

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

ウェルビーイング研究会において、専任教員と兼任教員とがともに教育研究活動に関する情報交換を活発に行っており、そのコミュニケーションの密度が高いことが本学部の特色である。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既に実施している場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してく

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

ださい。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
ウェルビーイング研究会の成果をすべての兼任教員に周知できていないことが課題と考えられ、その伝達方法について検討を要する。

【教員・教員組織の評価】

現代福祉学部では、教員の能力・資質や教員組織の構成・運営については適正に文書化され、運営されている。年齢分布も教員採用時に考慮されており、偏らない構成となっている。

現代福祉学部で特徴的なのはウェルビーイング研究会である。毎年3回行われ、2021年度は対面とオンラインで教員の研究活動や社会活動の共有やオンライン授業の振り返りなどが行われ、教員のFDに貢献している。ただし、その成果を兼任教員にまでは必ずしも周知できていないことが課題として認識されており、その方法についての検討が必要であろう。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。
・教務委員会および教授会において把握し、適切な対応が行われている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・現代福祉学部 進級・卒業審査資料
・留級者一覧
・休学届、退学届

6.1②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度6.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。
オフィスアワーを設け、学生に周知し、修学支援を行っている。また基礎演習と専門演習を必修科目とすることで、全ての生徒がゼミに所属し、担当教員が細やかな修学支援を行っている。
実習に関する相談は、学科レベルで現場・実習指導室・担当教員の二者または三者連携によって、個々の学生に応じた実習環境の整備と実習指導を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度現代福祉学部履修の手引き
・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習 実習の手引き
・心理実習の手引き

6.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度6.1③に対応

S： さらに改善することができた
【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 成績不振の学生については、年度当初の学年別のガイダンスとは別に、留級者を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。また学部で定めた基準により、低 GPA 学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認する等、きめ細かな対応を行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
<ul style="list-style-type: none"> 低 GPA 学生に対する状況確認をより丁寧に行うため、年に 1 回から 2 回に増やしたところ、初回に対応した学生が授業に出席するようになるなどの改善が見られた。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス日程、履修相談会相談用紙 低 GPA リスト 現代福祉学部成績不振学生等への対応基準

6.1④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018 年度 6.1④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。
<ul style="list-style-type: none"> 入学時のガイダンスにおいて、外国人留学生を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
<ul style="list-style-type: none"> 多摩 4 学部日本語教育科目連絡・調整会議において留学生に関する情報共有を行っている。特に、この間はコロナ禍での対応についても同会議体と連携して学部の留学生の就学環境の整備に努めた。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> 多摩 4 学部日本語教育科目連絡・調整会議議事録

6.1⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018 年度 6.1⑤に対応

S： さらに改善することができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
<p>各教員のオフィスアワーに加え、専門演習や基礎演習、実習担当クラスなどの少人数クラスにおいても各教員が学生の相談に応じ、学生にとって相談しやすい教員を選べるようにしている。また、必要に応じて事務課とも情報を共有し、学生の生活面と学業面の両面を支えるべく取り組んでいる。</p> <p>学部や大学としての対応が必要な場合には、その案件に応じて、学生のプライバシーに配慮しつつ執行部レベル・教務委員会レベル・教授会レベルでの検討を行い対応している。</p>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
<p>ダイバーシティ尊重の観点から個別的配慮が必要な学生に対して、学生のプライバシーに配慮しつつ学科レベル、領域別レベルで検討を行い対応した。</p>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> 特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>基礎演習や専門演習、実習教育などの少人数教育を一年次から継続しているため、学生の状況確認が行いやすく、比較的早い段階で問題をキャッチし、相談に乗ることができる。</p> <p>様々な少人数クラスが重層的に構成されていることにより、学生に関わる関係教員が相談・連携して、一貫した方針で対応ができる。</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
成績不振の学生には年度当初にガイダンスを行い、特に成績が振るわない学生には個別相談を行っているが、集団活動や対面式活動に苦手意識や緊張感が強く、一人で抱えてしまう学生がいるのも事実である。このような学生の成績不振の原因の特定とより良い教育的指導の方策を検討することが今後の課題である。

【学生支援の評価】

現代福祉学部は少人数教育が全学年を通じて行われている。このため、各教員のオフィスアワーに加え、少人数クラスの担当教員も個々の学生の相談に応じることができる。これにより、各学生の状況確認が行いやすい環境にあり、学業面や生活面で問題を抱える学生にはかなり早い段階で対応することができている。
一方で、成績不振者は問題を一人で抱え込んでしまい、指導が容易でない場合も多い。これは現代福祉学部に限らず大学全般に見られる傾向であるが、少人数教員のメリットを生かした現代福祉学部としての対応策の必要性も認識されている。

7 教育研究等環境**(1) 点検・評価項目における現状**

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーター等を配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度 7.1①に

対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。
受講者数の多い授業を中心に、必要に応じてティーチング・アシスタント (TA) を配置している。またラーニングサポーターによる新学期の履修相談を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
・特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・TA名簿 ・履修相談案内 ・履修相談用紙

7.1②学部 (学科) として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※取り組みの概要を記入。
教室前にアルコール消毒液、および教室内に扇風機を設置し、またアクリル板を設置することで感染対策を行っている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。

小規模な学部ゆえに、教員・学生間、学生・学生間の距離が近く、相談体制が作りやすく、また効果的に機能するのが本学部の長所である。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【教育研究等環境の評価】

現代福祉学部は、小規模で少人数クラスが多いことが特徴であり、これを生かして教員と学生、学生と学生との関係が築かれやすく、教育研究に有利に作用している。受講者数の多い事業にはティーチング・アシスタントが配置される他、ラーニングサポーターが新学期の履修相談も行っており、教育研究環境は適切である。COVID-19 に対しても適切な対策がとられている。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 8.1①に
対応

S： さらに改善することができた

※取り組み概要を記入。

関東を中心とした医療・社会福祉関連現場における実習を通して、マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク技術を学び、個別援助から共生社会づくりのためのスキルを身につけるプログラムを展開している。また、人材育成プログラムの向上を目指して、実習受入先の実習指導者を招いてソーシャルワーク実習報告会および意見交換会を実施している。

コミュニティスタディ実習を、コミュニティマネジメントインターンシップに拡張し、国内外の現場での実践を通して、地域づくりに関わる事業や仕事の実情を学び、社会の課題解決策を自ら導き出すスキルを身につけるプログラムづくりを目指している。コミュニティ分野・社会福祉分野の枠組みを超えて、自治体や社会福祉法人、NPO 団体、民間企業、地域住民団体など連携して継続的に実施しており、学生の調査や実践の成果を地域活力の増進に具体的に還元している。

臨床心理実習では、社会福祉施設、教育機関等と連携し、社会的活動に関わるボランティアを行い、活動の報告書作成をおこなっている。また臨床家養成において最も重要なことの一つである自己覚知を深めるため、医療機関等と連携した心理研修プログラムを展開している。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

実習やインターンシップに加え、コミュニティマネジメントをテーマとする各ゼミの活動成果の受賞が相次いだ。＜若葉台ワクチン接種予約代行プロジェクト：「2021 年度（第 5 回）自由を生き抜く実践知大賞」社会の課題解決賞受賞、人馬のウェルビーイングプロジェクト：「第 7 回「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2021」奨励賞受賞、散走で繋ぐ都立公園と大学キャンパス活動：M&K 賞受賞など＞

コロナ禍にも関わらず、ゼミ活動として新規プロジェクトも精力的に立ち上がっている（一例：Mizkan(ミツカン)との研究プロジェクト、多様性の保障される社会をめざす事業「Connect From Here」：公益財団法人神奈川県社会復帰支援会を中心として地域住民、福祉系学生が参加した実行委員会によりウォーキングサッカーおよびパラアートの開催など）。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・実習指導者意見交換会開催資料
- ・ソーシャルワーク実習報告書
- ・精神保健ソーシャルワーク実習報告書

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・スクールソーシャルワーク実習報告書
- ・コミュニティマネジメント・インターンシップ／リサーチ報告書
- ・心理実習報告書
- ・【2021年度（第5回）自由を生き抜く実践知大賞】社会の課題解決賞「若葉台住宅ワクチン代行予約プロジェクト」紹介 | 法政フロンセス (hosei.ac.jp)
http://phronesis.hosei.ac.jp/article/article-20220128175028
- ・第7回「多摩の学生 まちづくり・ものづくりコンペティション2021」の受賞団体 - 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 (nw-tama.jp)
https://nw-tama.jp/competition/2021-sinsakekka/

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
臨床現場や地域行政、社会福祉法人、NPO 部門等と多様な外部組織と連携・協力関係を持っているのが本学部の特色であり、教育活動と合わせて行うことで人材養成と現場の活性化、および「共生社会」への窓口の創出につながる事が長所である。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

現代福祉学部は、福祉関連の現場に立つ高度職業人の養成が目的の一つであり、実社会との連携が極めて重要である。そのために、臨床現場や地域行政、社会福祉法人、NPO等の外部組織と連携・協力関係を維持している。社会福祉施設や医療機関等と連携した実習・研修を積極的に展開し、その成果を地域社会に還元し続けていることは高く評価できる。2021年度はCOVID-19の感染拡大という悪条件の中でも社会と連携した新規プロジェクトをゼミ活動として立ち上げている。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度9.1①に対応

はい
※概要を記入。
教授会規程（学部長の権限や責任等を明記）を設け、その規定に則った運営が行われている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・教授会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・特になし

【大学運営・財務の評価】

現代福祉学部の教授会規程には、学部長の権限や責任等について規定されており、規程に則った運営が行われており、適切である。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。	
	年度目標	①現代福祉学部の教育理念（ウェルビーイング）を他学部と比較した上で、本学部の強みについて発信を強化する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直し実行体制を構築する。	
	達成指標	①競合他大学との差異をしっかりと分析した上で、教育理念と学部の強みを強調する広報内容にする。 ②上記に加えて、2021 年度のカリキュラム改正を反映した内容でパンフレットを改訂する。 ③学部ホームページを基軸に、オンラインメディア（HP、SNS 等）を活用する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	①②本学部の教育理念「ウェルビーイング」や3分野の融合という独自性や強みを確認しながら、さらに2021 年度のカリキュラム改正を反映してパンフレットを改定した。 ③学部ホームページでは、学生や教員の教育研究活動を逐次掲載したが、SNS の活用には至らなかった。 ④オープンキャンパスや付属高校説明会では、学生の協力を得ながら本学部希望者への魅力を伝えられた。
		改善策	受験生（その家族）目線でどういう広報媒体が効果的なのか、SNS 等オンラインメディアの活用について学生有志と検討を進めることが求められる。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。今年度の指標をおおむね達成している。
		改善のための提言	受験生（その家族）目線でどういう広報媒体が効果的なのか、SNS 等オンラインメディアの活用について学生有志とどのような形で検討を進めるのか、具体策を展開してほしい。
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。	
	年度目標	①質保証委員会と学部執行部による着実な PDCA サイクルを運用する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。
	達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の3回行う。 ②ウェルビーイング研究会を年3回開催し、そのうち1回以上はFD改善のための意見交換を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認は、年度当初、年度末の2回行った。 ②ウェルビーイング研究会を3回(6月、11月、3月)開催し、第2回ではFD改善(オンライン授業の工夫と成果)について情報交換を行った。
	改善策	FD改善に向けて、非常勤講師にも参加を呼びかけてウェルビーイング研究会を年3回開催することが定着したが、質保証委員会と学部執行部による年度途中の進捗状況の確認を確実に行うことが必要である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。今年度の指標をおおむね達成している。
	改善のための提言	質保証委員会と学部執行部による年度途中の進捗状況の確認をどのような形で行うのか、具体的に検討してほしい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
	年度目標	2021年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、言語コミュニケーション科目やSW指定科目の再編に注目して調査する。2020年度の新型コロナ感染拡大に対応したオンライン授業の内容検証に重点を置く。
	達成指標	①カリキュラム・マップやツリーを適切に改正する。 ②学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 ③モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①カリキュラム・マップやツリーの確認を行い、適宜修正した。 ②③学生へのモニタリング調査を11月に実施し、同調査により明らかになった課題について、教務委員会において改善策を協議し、教授会で報告した。
	改善策	授業改善アンケートでの自由回答を精査し、FD改善に反映することが次のステップとして期待される。
質保証委員会による点検・評価		
所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。	
改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
	年度目標	①2021年度から導入されたハイフレックス型授業も含め、オンラインによる講義形態と教室での対面授業についてそれぞれの長所と課題について検証を行う。 ②新型コロナ感染拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開についてその実態把握を行う。
	達成指標	①オンラインによる各種授業形態と対面授業とを比較するための教員向けアンケート調査

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

		<p>を実施する。</p> <p>②実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。</p> <p>③各ゼミの活動が感染症拡大とどのように対応してきたのか、2019～2021年度の比較データを収集し、今後の教育方法について検討を行う。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<p>①ウェルビーイング研究会において、授業形態ごとにオンライン授業の工夫と成果を報告し、意見交換を行った。</p> <p>②実習、インターンシップに関して、教務委員会ならびに実習調整委員会において情報を共有した。</p> <p>③各ゼミの活動が感染症拡大に対してどのように対応してきたのか、教員にアンケート調査を実施し、教務委員会において今後の教育方法について検討を行い、教授会にて報告した。</p>
	改善策	講義、実習、演習、専門演習ごとに、対面授業とオンライン授業のあり方を毎年確認し続けることが望ましい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。
	改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
	年度目標	<p>①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。</p> <p>②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。</p> <p>③研究活動の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。</p>
	達成指標	<p>①各実習の報告書と報告会開催について検証する。</p> <p>②卒業論文報告会の開催実態を調査する。</p> <p>③懸賞論文に学部内で10本投稿する。</p> <p>④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。</p> <p>⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。</p> <p>⑥優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。</p>
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		<p>①各実習の報告書と報告会開催状況について教務委員会で確認した。</p> <p>②④⑤各ゼミの卒業論文報告会、学内外のコンペ等への参加状況、学習・活動報告会の開催実態を調査把握し、教務委員会ならびに教授会に報告した。</p> <p>③懸賞論文は本学部から8編投稿（うち佳作2編）となった。</p> <p>⑥優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰した。</p>
改善策		各実習、ゼミ活動、卒業論文発表会、学内外のコンペ、懸賞論文など多彩な活動を学部内外に積極的に発信し、本学部のブランディングをより強固なものにしていくことが求められる。
質保証委員会による点検・評価		
	所見	ほぼ達成し、質の向上が見られる。今年度の指標をおおむね達成している。
	改善のための提言	多彩な活動をどのように学部内外に発信するのか、具体策を展開してほしい。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	年度目標	留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、2019年度から始まった「まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。さらに、編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。
	達成指標	①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。 ②2020年度に設置した「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を進める。 ③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討を行い、教務委員会と広報委員会を中心にそれを実行する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①教務委員会において、特別入試の入学者獲得状況、学習成果（GPA）の動向についてデータを確認した。 ②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の成績ならびに所属ゼミを確認した。 ③「まちづくりチャレンジ入試」では、同入試での入学者に協力を仰ぎ、オンライン相談会を2回開催し、志願者の確保に努めた結果、前年の3倍の志願者を得ることができた。付属校推薦についても、同推薦入学者に後輩への本学部のガイダンスへの協力を得た。
	改善策	編入学試験ならびに各種特別入試の入学者がどのような媒体を通じて、どのような期待を持って入学に至ったのか、つぶさに情報収集をして、広報手段に活かしていくことが望ましい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。
	改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
	達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①②他大学の情報の収集整理は行えなかったが、各専門分野ごとに、本学部の強みと課題ならびに学部カリキュラム編成を踏まえて次年度以降の教員採用について十分な検討を行った。
	改善策	本学部の中期的なビジョンと教員組織の将来像について、教授会懇談会などで十分に議論を重ねることが必要不可欠である。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	質の向上が一部見られるが、今年度の指標を十分達成できていない。
	改善のための提言	本学部の中期的なビジョンと教員組織の将来像についてどのように議論を進めるのか、より具体的に検討してほしい。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。
	達成指標	①低 GPA の基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、従来の秋学期に加えて春学期にも当該学生への面談を実施することにより、よりキメの細かな対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①低 GPA の基準を 0.5 以下から 0.8 以下に引き上げて対象とする学生を拡大し、従来の秋学期に加えて春学期にも当該学生への面談を実施することにより、よりキメの細かな対策を講じた。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を報告書にとりまとめ、春学期のガイダンス期間に人員を集中することを、次年度に向けた改善課題とした。
	改善策	低GPA学生への学習支援を徹底するとともに、ラーニングサポーターによる新入生への履修相談も充実させて入学時の学習意欲を底上げすることが大切である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。
	改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
9	中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。
	年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
	達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。 ②そのアンケート結果をもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③さらに、優れた活動を学部広報を通じて発信していく。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①②ゼミ担当教員へのアンケートを実施し、社会貢献活動の実態を把握し、教務委員会および教授会で公開した。 ③さらに、優れた活動を学部広報（HP）において随時発信してきた。
	改善策	社会貢献・社会連携活動を学部内でも共有することで、対外的な活動への意識をより高めていくことが求められる。
質保証委員会による点検・評価		
所見	目標を十分達成し、質の向上が顕著である。今年度の指標を達成している。	
改善のための提言	さらなる改善に引き続き取り組んでいただきたい。	
<p>【重点目標】 フィールドワーク、研究教育など多様な教育活動内容の「把握」「発表」「表彰」「広報」 教員と学生の協働による学部の外部へのアピール</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部教育における特徴的な活動（フィールドワークや学習研究教育、コンペ応募など）の実態を把握する。 ・感染症対策により、どのように柔軟に対応してきたのか、2019年度～2021年度の経年的な推移をみる。 ・ゼミごとの学習・活動報告会での発表、顕著な成績を収めた活動の表彰、それらを画像や映像に収録編集して対外的 		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

に配信するための組織を学生と教員で構築して遂行する。

【年度目標達成状況総括】

学部内のフィールドワーク、研究教育など多彩な教育活動内容の実態の概要を把握し、教員どうして共有することができた。また、優秀な成績を収めた学生を表彰する制度も2年連続実施し、定着化の素地は整った。これらの優位な点を、どうやってアピールしていくかが大きな課題であり、学生有志の協力を仰ぎながら広報活動の協働体制を構築し運営することは、学部内のブランディング（学生の誇りの醸成）・対外的なブランディング（学部の魅力発信）両面において、とても大切なことである。

一方、感染症対策による授業形態の対応をどのように工夫してどういう成果が挙げたのかという点を教員間で共有することができた。今後の新しいキャンパスのあり方も見据えながら、引き続きFD改善に努めていかねばならない。

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

現代福祉学部では、2021年度は新カリキュラム実施の時期にあたり、これに沿ってカリキュラム・マップやツリーの見直しが行われた。成績不審者のGPA基準を引き上げることで、面接の対象を広げ、より多くの学生に対し、よりきめ細やかな指導を行った。また、少人数教育の特徴を生かしながらも、それがクラス格差とならないように、教育内容や方法について様々な機会や手段を通じて教員間の密接な連携が図られている。

社会と連携したフィールドワークが多いことが現代福祉学部の特徴であり、実績も着実にあげているところであるが、それをどのようにより広く情報発信するかが課題として認識され、今後の成果が期待される。

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
	年度目標	①2021年度のカリキュラム改定を反映した新たな広報内容を検討し発信する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直す。
	達成指標	①2021年度のカリキュラム改定を反映した新たなパンフレットを作成する。 ②広報用動画を作成した上で、学部ホームページを基軸に広報活動を行う。 ③ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。 ⑤広報のあり方について、卒業生の意見を収集する機会を設ける。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。
	年度目標	①質保証委員会と学部執行部による着実なPDCAサイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。
	達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の3回行う。 ②ウェルビーイング研究会を年3回開催し、そのうち1回以上はFD改善のための意見交換を行う。 ③新型コロナウイルス感染症に関するような緊急対応が要請された際の質保証委員会の役割について検討し、定める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2021年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
	年度目標	①2021年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、言語コミュニケーション科目やSW指定科目の再編に注目して調査する。 ②専門演習IA・IBの選考方法の変更について検討し、今後の選考方法の在り方を検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	達成指標	①新カリキュラムに合わせてカリキュラム・マップやツリーを適切に改定する。 ②学生へのモニタリング調査を秋学期に実施し、明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③専門演習 IA・IB の選考方法について、教職員の意見を聴取して、次年度以降の進め方を検討し、決定する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
	年度目標	①2021 年度から導入されたハイフレックス型授業も含め、オンラインによる講義形態と教室での対面授業についてそれぞれの長所と課題について検証を行う。 ②新型コロナウイルス感染症拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開についてその実態把握を行う。 ③国際的な視点からの実践活動、研修活動の実現に関して検討する。
	達成指標	①オンラインによる各種授業形態と対面授業とを比較するための教員向けアンケート調査を実施する。 ②実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。 ③新型コロナウイルス感染症拡大下での各ゼミの活動の対応について実態を把握し、今後の教育方法について検討を行う。 ④国際的な研修活動の実現に向けて検討を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
	年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。 ④語学、日本手話言語等などの新規開講科目の学習成果を把握する。
	達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で10本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。 ⑥優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。 ⑦新規開講科目の学習成果や満足度等を、授業改善アンケートとモニタリング調査を通して把握する。 ⑧3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な研究教育のあり方を検討する。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
	年度目標	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、「まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ②編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成績等に基づいて検討し、指定校を見直す。
	達成指標	①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。 ②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を継続する。 ③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討し、実行する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		④編入学試験の試験科目について検討する。 ⑤指定校推薦の出願状況、入学者の学習成績等を用いて指定校の適否を判断し、見直す。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
	達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像を取りまとめ、必要な教員を確保する。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
	年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。
	達成指標	①低GPAの基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、さらに春学期と秋学期に当該学生への面談を実施することにより、より丁寧な対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
9	中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。
	年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
	達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。 ②そのアンケート結果をもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③さらに、優れた活動を学部広報を通じて発信していく。
<p>【重点目標】 2021年度のカリキュラム改定を反映した新たな広報内容を検討し発信する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度のカリキュラム改定を反映した新たなパンフレットを作成する。 ・広報用動画を作成した上で、学部ホームページを基軸に広報活動を行う。 ・ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ・広報のあり方について、卒業生の意見を収集する機会を設ける。 		

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

現代福祉学部では、2021年度の新カリキュラム実施を受け、広報活動の強化拡充が重点目標に定められた。そのために、パンフレットの作成、ホームページの充実、広報用動画の作成、卒業生の意見聴取など様々な活動が達成指標に盛り込まれていて、目標達成が期待される。ウェルビーイング研究会や質保証委員会の活動も継続して行い、FD改善やPDCAサイクルの運用が続けられることになっている。また、ポスト・コロナの情勢を見込み、オンラインによる講義形態の在り方について検討がなされることは適切である。

【大学評価総評】

現代福祉学部は、社会のウェルビーイングの実現を教育理念として、その達成に向けて教員が一致協力し合い努力する

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

姿勢が強く感じられ、高く評価できる。社会に貢献する高度職業人養成のために、少人数教育によるきめ細かな指導を行い、実習、研修、インターンシップ、ゼミなどを通じて、地域社会に学び、同時に地域社会に貢献している。2021年度はCOVID-19の感染拡大という悪条件に見舞われたために、国際的な活動は大幅に制限され、対面や現地での活動も制限されることになったが、その中でも工夫をこらして教育活動が行われた。これは教職員の高い意欲に基づくものと評価できる。さらに、少人数教育や実習、研修などは、ともすれば、内容や進度がクラスによりバラバラになりがちであるが、教員間の情報共有が積極的に行われ、教育レベルの標準化が担保される体制が出来上がっている。現代福祉学部の特徴として、年3回開催されるウェルビーイング研究会が各教員の研究成果の共有やFDの場として有効に機能しており、これにより教員相互の意識共有が強化されていて、高く評価できる。

現代福祉学部のこうした不断の努力が学部としての教育レベルを高めていることは疑いないが、今後はさらにこの成果の情報発信を進めることが期待される。それにより、優秀な学生の確保や地域貢献の機会が高まると思料され、期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。